

特集

文部科学省CBTシステム

メ ク ビ ッ ト

(MEXCBT)の活用

MEXCBTの概要	P. 2 ~ 3
MEXCBTの機能と搭載コンテンツ、活用の流れ	P. 4 ~ 5
MEXCBTの活用事例	P. 5 ~ 8
十勝管内の実践例	P. 9 ~ 11

【参考資料①】文部科学省
文部科学省CBTシステム
(MEXCBT：メクビット)に
ついて 2025.1.31最新版



【参考資料②】文部科学省
文部科学省CBTシステム
MEXCBT運用支援サイト



十勝教育研究所では、令和6年5月～6月に掛けて十勝管内の各小・中学校及び義務教育学校を対象に、文部科学省CBTシステム（以下「MEXCBT」）についてのアンケート調査を行いました。

今回は、今後活用が進むことが予想されるMEXCBTについて、概要や活用の流れ、活用事例などを特集します。

◆MEXCBTの概要

Q MEXCBTとはどのようなものですか。

A 子どもが学校や家庭において、オンライン上で学習・アセスメントできる公的CBTプラットフォームです。

近年、PISAなどの国際的な学力調査が、CBT (Computer Based Testing) で行われるようになりました。また、国内外の資格検定試験等でもCBT化が進んでいます。CBT化により、例えば次のようなことが可能になります。

- 文字や図表に加え音声や動画の提示が可能になり、思考力や問題発見・解決能力などの能力を測ることができる。
- 自動採点技術活用による結果の迅速な返却ができる。

○ 子どもたちの成績を、年度毎の経年比較、テスト内容ごとの分析などによって、今後の指導に生かすことができる。

文部科学省では、子どもが学校や家庭において、国や地方自治体の公的機関等が作成した問題を活用し、オンライン上で学習やアセスメントができるMEXCBTの開発・展開を進めています。令和3年12月から希望する全国の小・中・高等学校等で活用をスタートし、令和5年度からは、全国学力・学習状況調査の英語「話すこと」調査等でも活用されました。令和6年2月時点で約2万7000校、約850万人が登録しています。

MEXCBTの主な活用分野として、次の3つが挙げられます。

- 授業や家庭学習等
- 全国学力・学習状況調査
- 地方自治体実施の学力調査

学校でも家庭でもアクセスできるので、子どもたちがふだん使用しているタブレット端末から学習やアセスメントを行うなど、1人1台端末を活用した「デジタルならではの」学びを実現することが可能となります。

また、教員による問題作成や記述式問題に対する教員の手動採点も試行されていることから、指導と評価の一体化の充実に向けた活用も期待されます。

Q

MEXCBTと学習eポータルにはどのような関係があるのですか。

A

MEXCBTは問題出題・処理機能、学習eポータルは子どもの学習の窓口機能という役割分担をしています。

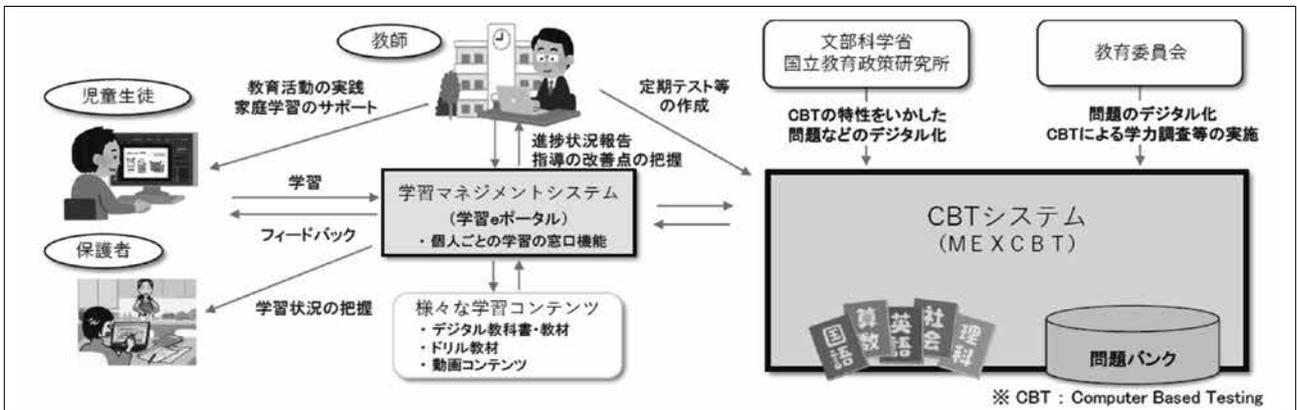
(MEXCBTの役割)

- 問題出題・処理機能
- ・ 問題を管理し、学習eポータルからのリクエストに基づき、出題して、採点処理等を行う。

(学習eポータルの役割)

- 学習の窓口機能
- ・ 学習リソース(デジタル教科書・教材、各種ツールなど)の互換性のあるデータを学習eポータルで一覧的に可視化する。
- 連携のハブ機能
- ・ シングルサインオン等のアクセスの容易化など、学習リソースの活用における連携のハブとなる。
- MEXCBTのアクセス機能
- ・ MEXCBTに蓄積されたデータを必要に応じて整理し、分かりやすく表示させる。

学習eポータルを通じて1つのIDとパスワードでログインすることで、MEXCBTや様々な学習教材などにアクセスができます。



MEXCBT と学習 e ポータルの連携イメージ (文部科学省 HP より)



電車のプラットフォーム(駅のホーム)に例えると、「MEXCBT線」「デジタル教科書線」「ドリル教材線」などといった複数の路線が乗り入れるターミナル駅の役割を果たすのが学習eポータルです。1つの改札から入れば(シングルサインオン)、どの路線にもつながるホームに等しくアクセスができます。

L-Gate	大樹町、豊頃町、浦幌町
Open Platform for Education	
まなびポケット	音更町、鹿追町、清水町、更別村 広尾町、池田町、本別町
Studyplus for School	
Qubena	芽室町
みらeポータル	
tomoLinks	
R-Station	
Benesse School Portal	
スクールライフノート	
実証用学習eポータル	士幌町、上士幌町、新得町、中札内村 幕別町、足寄町、陸別町、帯広市

学習eポータル標準モデル準拠ソフトウェア利用状況(令和7年1月現在)

Q

十勝管内の学習eポータル標準モデル準拠ソフトウェアの利用状況が知りたいです。

A

十勝管内では4種類のソフトウェアが利用されています。

学習eポータルは、MEXCBTへのアクセス方法など標準化された部分の機能は共通ですが、画面デザインやそのほかの機能などは、ソフトウェアによって異なります。令和6年度の各市町村の利用状況は次のとおりです。

◆ MEXCBTの機能と搭載 コンテンツ、活用の流れ



MEXCBTにはどのような機能やコンテンツがあるのですか。



国や自治体等が作成した問題の検索（下図参照）や配信、自動採点、教員による問題作成などです。

MEXCBTの機能は、主に3つあります。

- 学習支援機能
 - ・子どもの理解度や進捗状況に応じたサポートが行えるようになる。
- 学習管理機能
 - ・子どもの学習の進捗状況や成績、学習履歴などをリアルタイムで確認ができる。
- 教員による問題作成機能

問題バンクには、全国学力・学習状況調査や地方自治体の学力調査等、公的機関等が作成した問題（中央図参照）が約4万問搭載されています。問題の検索は、「教科から選ぶ」「問題の種類から選ぶ」という2つの選択肢があり、活用の用途によって問題が検索しやすくなっています。問題の検索から配信までの流れは、下図をご覧ください。

<ul style="list-style-type: none"> ○ 入門問題 <table border="1"> <tr> <td>MEXCBTの基本的な操作に慣れるための問題（9問）</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国が開発した問題 <table border="1"> <tr> <td>全国学力・学習状況調査（平成19年度～令和5年度）</td> </tr> <tr> <td>中学校卒業程度認定試験（国語、社会、数学、理科、英語）</td> </tr> <tr> <td>高等学校卒業程度認定試験（国語、社会、数学、理科）</td> </tr> <tr> <td>MEXT 英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」</td> </tr> <tr> <td>ブリティッシュ・カウンシル</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○ その他 <table border="1"> <tr> <td>PISA（国際学力調査）の公開問題（2015年、2018年）</td> </tr> <tr> <td>全国学力・学習状況調査を題材とした動画問題（小6理科）</td> </tr> <tr> <td>実用英語技能検定</td> </tr> <tr> <td>実用数学技能検定</td> </tr> <tr> <td>情報モラル学習問題</td> </tr> <tr> <td>日本漢字能力検定</td> </tr> <tr> <td>自治体等共同利用質問紙</td> </tr> <tr> <td>英語学習問題</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○ テスト作成サイトで教員等が作成した独自問題 	MEXCBTの基本的な操作に慣れるための問題（9問）	全国学力・学習状況調査（平成19年度～令和5年度）	中学校卒業程度認定試験（国語、社会、数学、理科、英語）	高等学校卒業程度認定試験（国語、社会、数学、理科）	MEXT 英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」	ブリティッシュ・カウンシル	PISA（国際学力調査）の公開問題（2015年、2018年）	全国学力・学習状況調査を題材とした動画問題（小6理科）	実用英語技能検定	実用数学技能検定	情報モラル学習問題	日本漢字能力検定	自治体等共同利用質問紙	英語学習問題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地方自治体の学力調査等の問題 <table border="1"> <tr> <td>岩手県作成</td> <td>「岩手県小学校・中学校学習定着度状況調査」(小5、中2) 「岩手県中学1年生英語確認調査」</td> </tr> <tr> <td>山口県作成</td> <td>「やまぐち学習支援プログラム」(小5、中1～中2)</td> </tr> <tr> <td>千葉県作成</td> <td>「ちばっ子チャレンジ100」(小1～小6) 「ちばのやる気学習ガイド」(中1～中3)</td> </tr> <tr> <td>さいたま市作成</td> <td>「基礎学力定着プログラム」(小1～中3)</td> </tr> <tr> <td>幸手市作成</td> <td>「パワーアップシート」「確認テスト」(小1～中2)</td> </tr> <tr> <td>北海道作成</td> <td>「ほっかいどうチャレンジテスト」(小1～中3)</td> </tr> <tr> <td>高砂市作成</td> <td>「高砂計算検定」(小1～中3)</td> </tr> <tr> <td>大阪府作成</td> <td>「STEPS in OSAKA」(小1～中3)</td> </tr> <tr> <td>横浜市作成</td> <td>「はまっ子学習ドリル」(小1～中3)</td> </tr> <tr> <td>佐賀県作成</td> <td>「さがんば」(小5、小6、中2)</td> </tr> <tr> <td>埼玉県作成</td> <td>「復習シート」(小4～中3)</td> </tr> <tr> <td>枚方市作成</td> <td>「小3社会」「小4社会」</td> </tr> <tr> <td>広島県作成</td> <td>「ひろしま大雨防災」</td> </tr> <tr> <td>岡山県作成</td> <td>「学力定着状況確認テスト」(小4)</td> </tr> </table>	岩手県作成	「岩手県小学校・中学校学習定着度状況調査」(小5、中2) 「岩手県中学1年生英語確認調査」	山口県作成	「やまぐち学習支援プログラム」(小5、中1～中2)	千葉県作成	「ちばっ子チャレンジ100」(小1～小6) 「ちばのやる気学習ガイド」(中1～中3)	さいたま市作成	「基礎学力定着プログラム」(小1～中3)	幸手市作成	「パワーアップシート」「確認テスト」(小1～中2)	北海道作成	「ほっかいどうチャレンジテスト」(小1～中3)	高砂市作成	「高砂計算検定」(小1～中3)	大阪府作成	「STEPS in OSAKA」(小1～中3)	横浜市作成	「はまっ子学習ドリル」(小1～中3)	佐賀県作成	「さがんば」(小5、小6、中2)	埼玉県作成	「復習シート」(小4～中3)	枚方市作成	「小3社会」「小4社会」	広島県作成	「ひろしま大雨防災」	岡山県作成	「学力定着状況確認テスト」(小4)
MEXCBTの基本的な操作に慣れるための問題（9問）																																											
全国学力・学習状況調査（平成19年度～令和5年度）																																											
中学校卒業程度認定試験（国語、社会、数学、理科、英語）																																											
高等学校卒業程度認定試験（国語、社会、数学、理科）																																											
MEXT 英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」																																											
ブリティッシュ・カウンシル																																											
PISA（国際学力調査）の公開問題（2015年、2018年）																																											
全国学力・学習状況調査を題材とした動画問題（小6理科）																																											
実用英語技能検定																																											
実用数学技能検定																																											
情報モラル学習問題																																											
日本漢字能力検定																																											
自治体等共同利用質問紙																																											
英語学習問題																																											
岩手県作成	「岩手県小学校・中学校学習定着度状況調査」(小5、中2) 「岩手県中学1年生英語確認調査」																																										
山口県作成	「やまぐち学習支援プログラム」(小5、中1～中2)																																										
千葉県作成	「ちばっ子チャレンジ100」(小1～小6) 「ちばのやる気学習ガイド」(中1～中3)																																										
さいたま市作成	「基礎学力定着プログラム」(小1～中3)																																										
幸手市作成	「パワーアップシート」「確認テスト」(小1～中2)																																										
北海道作成	「ほっかいどうチャレンジテスト」(小1～中3)																																										
高砂市作成	「高砂計算検定」(小1～中3)																																										
大阪府作成	「STEPS in OSAKA」(小1～中3)																																										
横浜市作成	「はまっ子学習ドリル」(小1～中3)																																										
佐賀県作成	「さがんば」(小5、小6、中2)																																										
埼玉県作成	「復習シート」(小4～中3)																																										
枚方市作成	「小3社会」「小4社会」																																										
広島県作成	「ひろしま大雨防災」																																										
岡山県作成	「学力定着状況確認テスト」(小4)																																										

MEXCBTに搭載されている問題バンク（令和6年7月時点）

The screenshot shows the MEXCBT search interface. At the top, there are two tabs: "教科から選ぶ" (Select by subject) and "問題の種類から選ぶ" (Select by question type). Below these are search filters for "教科" (Subject), "科目" (Course), "学年" (Grade), and "タイトル" (Title). A "検索" (Search) button is visible. Below the filters is a table of search results with columns for "No.", "タイトル", "教科/学年", "科目", "問題情報", "解説情報", and "評価". A specific question is highlighted with a circled '5' in the 'No.' column and a circled '4' in the '問題情報' column.

問題検索画面（まなびポケットより）

- ① 「教科から選ぶ」「問題の種類から選ぶ」のどちらかを選択する。
- ② 「教科」「学校種別」「科目」「学年」「タイトル」から該当するものを選択する。
- ③ 「検索」ボタンをクリック。
- ④ 「タイトル」と「問題情報」から問題を選択する。
- ⑤ 配信問題を選択する。



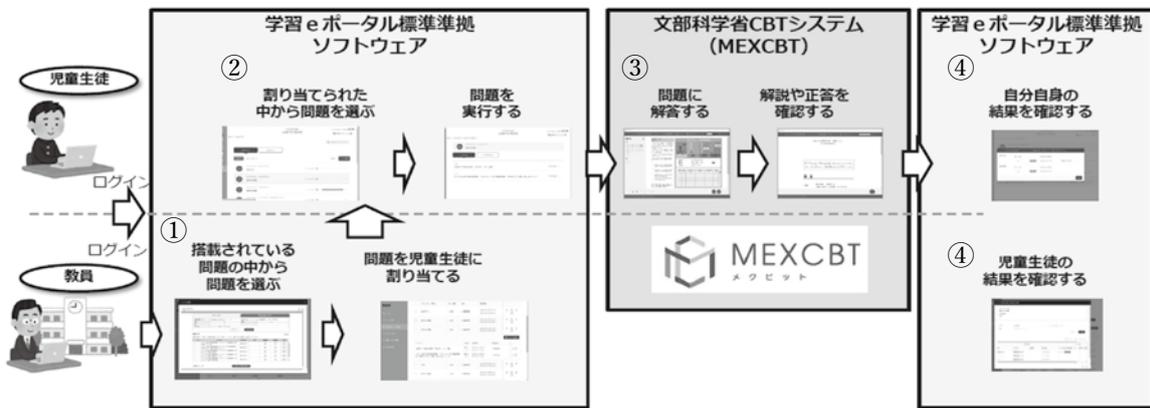
MEXCBTの操作手順が知りたいです。



MEXCBTの操作は、下図のように問題選択(教員)↓問題選択(子ども)↓解答(子ども)↓結果確認(子ども、教員)という4つの手順があります。

- ① 問題を選ぶ(教員)
学習eポータルにログインし、MEXCBTに搭載されている問題バンク(前頁参照)の中から問題を選び、該当する子どもに割り当てる。
- ② 問題を選ぶ(子ども)
学習eポータルにログインし、教員から割り当てられた問題の中から、解答する問題を選ぶ。
- ③ 問題に解答する(子ども)
選択した問題を解答し、解説や正答を確認する。
- ④ 結果を確認する(子ども、教員)
子どもは自分自身の結果を確認し、教員は該当する子どもの結果を確認する。解答結果については、学習eポータル上で確認することができる。

下の図を見ながら、実際に操作してみることで、問題配信から結果確認までの流れがつかみやすくなります。



問題配信から結果確認までのMEXCBTの操作イメージ(文部科学省HPより)



子ども1人につき、1つのアカウントを用いて、学校、家庭を問わず、事前に教員が割り当てた問題をオンライン上で解答することができます。また、多肢選択式問題、完全一致式問題は、即時に自動採点され、学習eポータル標準準拠ソフトウェア上で確認することができます。

◆MEXCBTの活用事例



MEXCBTの具体的な活用事例を知りたいです。



日々の学習における活用、国や地方自治体独自の学力調査、国のアンケート調査、教員による教材作成など様々な用途に活用されています。



MEXCBTの活用事例

日々の学習における活用事例としては、主に7〜8頁で紹介する4つの事例が挙げられます。今紹介する活用事例のほかにも、文部科学省HPで紹介されています。ご覧になりたい方は、左のQRコードを読み取ってください。

文部科学省総合教育政策局教育DX推進室
「文部科学省CBTシステム(MEXCBT...
メクビット)」について



MEXCBT×地方自治体独自の学力調査等

MEXCBTを活用した地方自治体独自の学力調査等のCBT化について、令和4年度は4都道府県・5市町村でしたが、年々実施・試行する自治体が増加しています。

北海道では、令和4年度から「ほっかいどうチャレンジテスト」が実施されています。

MEXCBT×教員による教材作成

テスト作成サイトで作成した自作教材をMEXCBTに搭載し、授業で使ったり、課題として配信したりすることができます。

なお、作成した教材の活用事例として7頁に活用事例2「教材（テスト・問題）づくり」を掲載しています。

MEXCBT×全国学力・学習状況調査

令和5年度は、中学校第3学年の生徒質問紙の一部や英語「話すこと」調査で、令和6年度は中学校生徒質問紙や経年変化分析調査において活用されています。

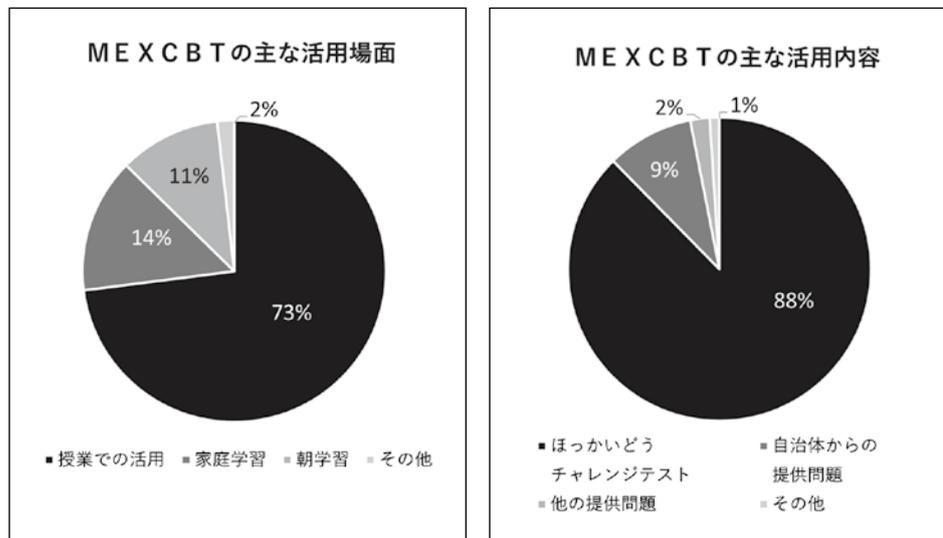
MEXCBT×国実施アンケート調査

教員や子どもを対象とした大規模なアンケート調査が、MEXCBTで実施されています。

十勝管内の各小・中学校及び義務教育学校においては、主な活用場面として「授業での活用」が7割を超えています。しかし、そのほとんどが「ほっかいどうチャレンジテスト」の実施にとどまっています。アンケートにも、MEXCBTの活用に関する記述が見られました。そこで、最後に日々の学習における先行的な活用事例と、十勝管内の実践例をご紹介します。

MEXCBTは、子どもの主体的な学びに向けた1つの手段として期待されます。本特集が、先生方や子どもたちのMEXCBT活用の一助となれば幸いです。

○ MEXCBTの活用に関するアンケート結果



アンケート回答数：87校（複数回答あり）

「ほかの学校では、どのような活用をしているのか知りたい」
 「家庭学習での活用の実践例を知りたい」
 「ほかの自治体が提供している問題を積極的に活用したい」
 「単元テストに活用したい」



区分	具体例
1 授業づくり	○ 授業をつくる際のゴール設定に活用 例：教科書やプリントに加えてMEXCBT問題を活用する。
2 教材（テスト・問題）づくり	○ 自作教材をMEXCBTに搭載し、授業での使用や、課題として配信 例：子どもたちが観察・実験で撮影した画像を使用して問題を作成する。
3 授業の振り返り	○ 本時の内容が身に付いているか把握するために活用 例：単元計画にMEXCBTを活用した振り返りを設定し、授業の最後に練習問題として取り組む。
4 家庭学習等	○ 家庭学習の課題（宿題）として活用 例：家庭学習用に「○学年○月学年課題」というテストグループを作成し、問題を配信する。

MEXCBTを日々の学習における活用例（文部科学省 HP）を基に作成

活用事例1 「授業づくり」

○ 中学校における活用事例

(MEXCBTの具体的な活用方法) ※一部抜粋

- ・日々、生徒に端末を持ち帰らせるにあたり、MEXCBTで課題を配信している。自動採点機能もあり、教員の負担を軽減したいというねらいもある。
- ・授業中に課題が終わり、他の生徒への援助も終わった生徒に対して、難度の少し高い問題を配信し、個別最適な学習につながるように活用した。
- ・長期休暇中の必修の課題として生徒に配信し、その結果を全体にフィードバックして、ライティングやリスニングの問題点を共有することができた。
- ・英語科で各単元の最後の活動に結び付けて取り組み、「聞く→話す→書く」、「読む→話す→書く」などの活動を習慣化している。



(MEXCBTを使ってみての子どもへの反応) ※一部抜粋

- ・数学科では、積極的に活用していたが、計算問題等で解答がしづらいいった一面も見られた。
- ・英語科では、自習・必修ともに生徒には好感触である。

(MEXCBTを使ってみての先生等の反応) ※一部抜粋

- ・問題の種類が多く、レベルも多岐にわたるので使い勝手がよい。ただし、問題が豊富であるがゆえに、その選別に時間がかかってしまうこともある。
- ・MEXCBTに限らずそれぞれの学びのツールに改善の余地はあるため、使うことでより良いものにしていけると感じる。

活用事例2 「教材(テスト・問題)づくり」

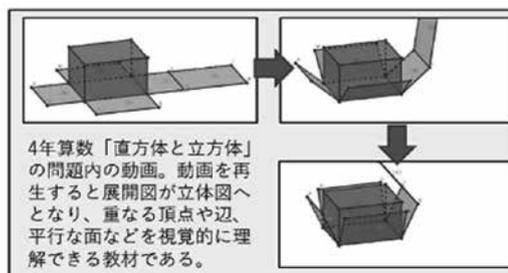
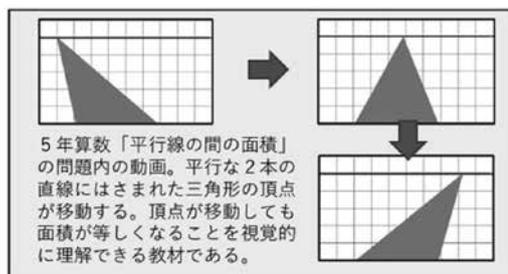
○ 小学校における活用事例

(自作問題を作成する際に、工夫した点、苦労した点、感想等)

※一部抜粋

教科書やプリント等、紙に掲載されている平面的な図形では、図形の特徴をイメージしづらい子供たちがいることを課題と感じていたことから、動画を活用して図形が動く様子を表現することを考えました。面積では等積変形の様子、立体では展開図の頂点や辺の位置関係等、授業で子供たちが実際に行ったことをMEXCBTの問題で確認できることをイメージして作成しました。

また、文章を読むことに抵抗がある子供でも問題のイメージにつながるよう、図やイラスト、吹き出し等を活用し作成しました。等積変形の動画は、スライド作成ソフトウェアで作成した画面を録画しました。立体を切り開く様子は、立体動画を作成できるフリーソフトウェアを使いました。



(自作問題を解いた子どもたちの反応等) ※一部抜粋

- ・授業の最後に取り組みするための問題を作成したので、動画等をしっかりと確認し、考えながら問題に取り組み姿勢が見られました。

(MEXCBTを使ってみての感想、意見等) ※一部抜粋

- ・CBT形式の問題を作成すると、動画を活用したものであったり、イラストがカラーで表示されたりするものがあり、子供たちの取組の意欲が高まりました。

活用事例3 「授業の振り返り」

○ 小学校における活用事例

(活用の概要) ※一部抜粋

- ・ 小学校3～6年の国語、算数、理科の朝ドリル学習や家庭学習として、「ちばっ子チャレンジ100 (千葉県提供の問題)」や「全国学力学習状況調査」等を利用している。子供たちには自動採点機能を活用させ、間違えた問題の解き直しを行わせている。
- ・ 教師は、自動採点機能により課題等の結果を迅速に把握し、即時、授業改善や児童生徒の支援へ生かしている。



(今後の活用) ※一部抜粋

- ・ 校内の基礎学力定着テストをMEXCBTで行うことで、印刷や採点の手間を省き業務改善を進めていく。
- ・ 今後掲載される問題を意欲的に取り組めるようにしていく。
- ・ 採点結果をもとに、更なる授業改善に生かしていく。



(児童生徒の反応) ※一部抜粋

- ・ 問題の種類がいろいろあったり、問題数が多かったりして、やりがいがあります。
- ・ 理科の動画による問題に挑戦できてよかったです。

(教員の反応) ※一部抜粋

- ・ 従来の紙ベースの課題やデジタルのドリルソフトとMEXCBTを併用することで、子供たちの問題に挑戦する選択肢が増えました。

活用事例4 「家庭学習等」

○ 中学校における活用事例

(活用の概要) ※一部抜粋

- ・ 各教科担当で課題を選定し、1、2年生は必修課題、3年生は学力向上のための自習課題として配信している。

(右の図【①】【②】)

(例) → 3年生には自習課題として「令和4年度全国学力・学習状況調査」の国語、数学、理科を配信した。

→ 2年生には必修課題として社会と理科で「ちばのやる気学習ガイド」、国語と数学で「さいたま基礎学力定着プログラム」、英語で「やまぐち学習支援プログラム」の1学期の学習内容を中心に68個配信した。

→ 1年生は2年生とほぼ同様であるが、学習内容が少ないため、「全国学力・学習状況調査」の小学6年国語と算数の過去3年分を加え30個を配信した。

- ・ 取組期間中は、各生徒の学習進捗を常時把握することができた。

(右の図【③】)

【①各教科担当で課題選定】		
テストグループ名	テスト種別	状態
3年夏季休業自習課題	自習	配信開始中
2年夏季休業課題(必修)	必修	配信開始中

【②配信内容の例】	
2022年7月4日～2022年8月31日	2年夏季休業課題(必修)
テスト種別	必修
配信内容	ちばのやる気学習ガイド 英語 中学校2年生 (3コマ15) 標準次
配信内容	ちばのやる気学習ガイド 英語 中学校2年生 (3コマ16) 不規則を使った文

【③学習進捗の把握】			
氏名	テスト名	進捗状況	学習の進捗
秋田 太郎	英語	35/67	35 / 67 テスト完了
秋田 次郎	英語	4/67	4 / 67 テスト完了
秋田 三郎	英語	0/67	

(生徒の反応) ※一部抜粋

- ・ 昨年度は、課題の量が少なく、物足りなさを感じている生徒もいたが、今年度の長期休業は各教科適度な分量になってきたようだ。

(先生の反応) ※一部抜粋

- ・ 各教科の相当量ある「全国学力・学習状況調査」の過去問題や自治体作成問題等から、基礎定着を図る課題を適切な分量で選定することが難しかった。

十勝管内の実践例①

Point 「朝学習」「発展的な学習」「宿題」「長期休業中の課題」



MEXCBTの具体的な活用方法

- 朝学習で活用をしている。基礎的・基本的な学習の復習問題を配信し、子どもがその日の学習にスムーズに取り組むことができるようにしている。
- 授業中に課題が終わった子どもに対して、学びを深める手段の1つとして発展的な問題を配信している。
- 宿題や長期休業中の課題として取り組んでいる。間違えた問題をすぐに確認できるので、自分でもう一度問題に取り組むことで定着を図っている。
- 宿題では、授業中につまずきが多かった問題の類似問題を配信して、取り組むようにしている。配信問題は、主に以下ものを活用している。
「ほっかいどうチャレンジテスト」(北海道作成問題)
「はまっこドリル」(横浜市作成問題)
「ちばっ子チャレンジ100」(千葉県作成問題)



【発展的な問題を協働的に学ぶ様子】



子どもの様子

- これまでは、課題が早く終わった子ども用に教科書問題、クラウド配信ドリル、プリントなどを活用していた。しかし、MEXCBTを活用することで、教師が配信した問題から子どもが自分に合った問題を選択して取り組むことができる。
- 採点結果がすぐに出るため、間違えた問題を確認し、再度取り組む様子が見られた。
- プリントとは違い、問題を読んで選択するだけで解答できるので、問題に取り組む抵抗感が少ないと感じる。
- 配信中は何度も問題に取り組むことができるので、家庭学習に取り入れる子どもが増えた。



教員の反応

- 子ども一人一人の苦手な内容をすぐに確認することができるため、個別最適な学びを進めることができる。
- MEXCBTにしたことで、プリントの準備や採点がなくなり、時間を有効活用できるようになった。



【間違えた問題に再度取り組む様子】



今後の展望（更なる活用方法など）

- 学校では、MEXCBTの活用が「ほっかいどうチャレンジテスト」のみとなっているため、全教職員に有効なツールとして共有したい。
- MEXCBTの活用に加え、学習eポータル「まなびポケット」では、アンケートやクイズなどを作成し、全校で共有することができるので、子ども同士の交流のツールとしても有効活用したい。

米川 透伊 教諭（音更町立緑陽台小学校）

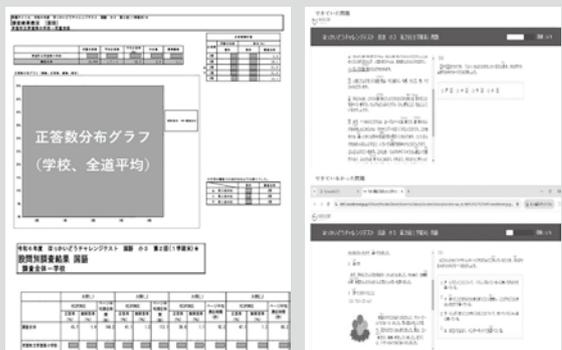
十勝管内の実践例②

Point 「発展的な学習」「チャレンジテスト結果分析」



MEXCBTの具体的な活用方法

- 第5・6学年において授業中の課題が早く終わった子どもに問題を配信している。特に「思考力、判断力、表現力等」を重視した問題を選択して取り組み始めている。
- 水泳学習の見学の子どもに対して、自習課題として発展的な問題に取り組んでいる。
- チャレンジテスト結果分析に活用している。
 - ・チャレンジテストの結果公表後、調査結果概況、設問別調査結果とともにチャレンジテストの問題別正答率を掲載した資料を作成し、全教職員と共有している。
 - ・どこができていなかったか、どこができていたかを把握した上で、学習eポータル「Qubena」を使って子どもに過去問題【確認用】を送信して、過去問題の振り返りを行っている。



【結果分析資料 左:問題別正答率 右:高正答率問題と低正答率問題】



子どもの様子

- 問題の内容が難しいと感じている子どもがいるのではないと思われる。
- チャレンジテストがやりやすくなったと感じる。一方で、回答形式が選択式なので、深く考えずに回答している子どももいる。そのため、紙媒体の場合と比べ、じっくりと考えているかどうか疑問に思うことがある。
- 国語の漢字問題や算数の筆算問題はタブレット端末ではやりづらく、計算用紙等を使用しながら解いている子どももいる。



教員の反応

- 教員による丸付けが必要ないのがメリットだと感じている。
- 以前のように紙の解答用紙を見て、すぐに正誤答が分からないことに使いづらさを感じている教員もいる。



【チャレンジテストに取り組む様子】



今後の展望 (更なる活用方法など)

- 校内では、高学年のみMEXCBTを活用しているので、少しずつ第1～4学年も日常的に活用できるようにしていきたい。
- 引き続きチャレンジテストの結果分析を行い、苦手な内容を中心とした復習に生かしていきたい。

吉岡 謙作 教頭 (芽室町立芽室南小学校)

十勝管内の実践例③

Point 「基礎的・発展的な学習」「長期休業中の課題」



MEXCBTの具体的な活用方法

- 国語科、社会科、数学科、理科、外国語科の5教科において、「ほっかいどうチャレンジテスト」を実施している。
- 各教科においては、主に社会科と理科においてMEXCBTを活用した学習を進めている。
 - ・ 学習eポータル「L-gate」を通して、長期休業中の課題を配布し、基礎的な学力の定着を図った。
 - ・ 授業中は、課題を終えた子どもの知識定着に向けて発展的な学習として問題を配信している。
 - ・ 配信問題は、主に以下の2種類を活用している。
「ほっかいどうチャレンジテスト」(北海道作成問題)
「ちばのやる気学習ガイド」(千葉県作成問題)



【授業前にMEXCBTの問題を選択・事前配信】



子どもの様子

- どの子どもも配信された問題には意欲的に取り組んでいる。
- 発展的な学習では、教師が配信した問題の中から、自分のレベルに合わせた教材を選択し、取り組んでいる。
- 終了後すぐに解答内容の正誤や点数を確認することができることから、復習に取り組みやすくなっている。



【配信問題に取り組む様子】



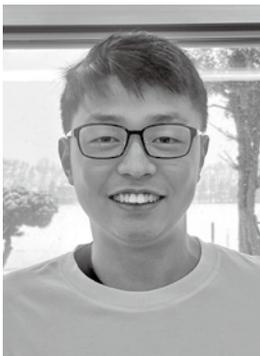
教員の反応

- 「ほっかいどうチャレンジテスト」の実施において、これまで行っていた集計作業が不要となり、業務の削減につながっている。
- 各教科における課題、小テストの配信や実施においても、採点業務を必要としないこと、また、全体の結果を自動で集約してくれることで、すぐに結果を確認することができるようになった。
- 知識及び技能を問う問題だけではなく、思考力、判断力、表現力等を問う問題もあり、高校入試に向けた問題演習にも活用することができた。
- 基本的な内容と発展的な内容の問題があるので、習熟度別学習で活用ができています。



今後の展望(更なる活用方法など)

- ICTを活用した授業改善に向けて、MEXCBTを活用していきたい。
- 先生方全員が効果的に使えるようになるために、校内研修を通じて活用方法の周知を図りたい。
- MEXCBTを使うことで、自分の理解度を踏まえて、改善に向けて主体的に取り組むことができるようにしていきたい。



石井 唯人教諭 佐々木 大教諭 (大樹町立大樹中学校)